2024 年度　情報学部　小論文試験についての全体講評

１．出題の意図

情報学部の小論文試験は、アドミッションポリシーで示されている「幅広い教養と基礎学力を身に付けていること」および「情報技術のあり方について自ら思考し表現共有する力を有すること」の評価を主たる目的とした設問から構成されています。社会で利活用されている情報技術に関する文章やデータを題材とし、その内容の理解力と理解に基づいた思考力を問い、設問に沿って思考した内容を論理的にかつ過不足なく記述できる表現力が問われています。

２．採点・評価のポイント

いずれの選抜区分においても大問 2 問の出題でした。問いごとの評価のポイントは、以下の通りです。

問題１

問題 1 では、題材の内容の理解力が主に問われ、理解したことを過不足なく述べることが期待されています。題材文を読解し、そこで提示された取り組みや技術と社会との関係などを的確に把握するための理解力を問う設問から構成されていました。設問で問われたことを把握し、前提となる題材に基づいて問いについて思考し、その内容を文章として表現することが必要です。また、問いの内容に対応する箇所を適切に抽出できる理解力と論点を明確にして思考する力が重要になります。そして、問われていることがらについて、自身の思考の内容を簡潔に記述できているかが評価のポイントです。

問題２

問題 2 では、題材として示された記事やデータで示されている内容を理解し、その理解に基づいて問いを考察し、考察した内容を適切に述べることが期待されています。一部の選抜区分では、表を読みとったうえで解答する必要がありました。その問題においても、題材が示す状況を理解でき、問いの内容について適切に考察ができる力が必要でした。

本設問においては、唯一の明らかな正解はありません。題材に含まれない内容や、題材において否定されている事実に立脚することは適切とは言えません。また、設問に指定されていることがらから逸脱した例示、議論あるいは、論理的でない表現も適切ではありません。つまり、問いに示されている考察の前提となる仮定や事実を把握すること、そこから自分自身で考えて結論を導くことが必要となり、なぜそのように考察したのかを、題材に立脚しつつ述べることが必要です。

一部の選抜区分の問題では、技術がどのように適用されているかを読み取ることや数的なデータの把握が必要でした。つまり、題材が示す状況を的確に把握した上で、問いの内容についてどう考えたのかを表現する力が評価される設問でした。すなわち、問題 2 においては、問われたことに関して考察していることおよびその記述の明快さと論理展開の適切さが評価のポイントです。

福知山公立大学入試委員会

2024 年 3 月 31 日